

庄内総合高校再編整備に係る先進校視察報告

- 1 日 時 平成30年6月21日(木) 14時30分 から17時00分まで
- 2 学校名 滋賀県立能登川 (のとながわ) 高校
- 3 訪問者 庄内総合高校 教頭 難波理、高校改革主査 丹野陽 (報告者)
- 4 応対者 校長 河下太勇、副校長 中島清承、教頭 森野康行
滋賀県教委 参事 嬉野公人、教育企画主事 松本忠和

5 調査事項

- (1) 能登川高校の特色
- (2) 全日制と定時制生徒の交流・連携に係る課題と工夫
(授業、学校行事、部活動、生徒会活動等)
- (3) 全日制・定時制職員の勤務と教育課程 (時間割) 運営上の課題と工夫
- (4) 地域連携の在り方
- (5) その他

○課程間の授業の履修、それに伴う授業料の徴収について

○10:55 始業について (10:55 始業の理由、課題と利点など)

○昼間定時制を新設する際の課題と工夫

※以上は、資料を参照のこと。

○再編整備の後、地域や中学校からの評価が高まった。

○Ⅱ部 (昼間定時) は計画当初は1日4時間 (4修) を標準として、その前後の時間帯に選択科目を設けて、希望者は3年で卒業できるカリキュラムを編成した。しかし、3年卒業の希望が多かったので、現在では1日6時間 (3修) を基本としている。

○Ⅰ部 (全日) とⅡ部 (昼間定時) は制服を同じにして、服装頭髪指導は原則として同一の姿勢で行っている。Ⅲ部には制服がない。

○HR教室は、本校舎の2階がⅢ部、3階がⅠ部、4階がⅡ部で分けている。生徒には、それぞれの階にみだりに立ち入らないように指導をしているが、互いを尊重する姿勢があるので自然と棲み分けができています。

○Ⅱ部の10:55分始業は、非常に効果的である。特に中学校時代不登校傾向だった生徒や、朝起きられない (起立性調節障害の) 生徒には有効である。(※資料も参照)

6 まとめ

●庄内総合高校でも、昼間定時制の始業時刻を全日制とずらす配慮が求められる。一方で、全日制と定時制のHR教室棟を分ける必要はなく、階層を分ければ十分だと思われる。

●能登川高校では、昼間定時制でも全日制と同じく「3年間で卒業できる」ことが生徒の意欲につながっている。庄内総合高校では、4年間での卒業をベースとしながらも、自由選択群を設定し3年間で卒業できるような教育課程も検討する必要がある。

●教員には全日制と定時制兼務の辞令が必要である。籍がある課程の授業を受け持つことをベースとしながらも、兼務する課程の授業を受け持つような教員の協力体制の整備が必要である。

●昼間定時制と全日制の生徒を無理に交流させない (必要に応じて交流させる) という姿勢が能登川高校では定着しており、それで十分であるとの認識を職員は共有している。交流の程度は、能登川高校をベースで考えるのが良いと思われる。

●全日制と昼間定時制と一緒に学ぶ選択群は週2コマ設定している (3年選Ⅱ)。授業料徴収は条

例に則って行われている。

庄内総合高校再編整備に係る先進校視察報告

- 1 日 時 平成30年6月20日(水) 13時00分 から15時30分まで
- 2 学校名 埼玉県立吉川美南(よしかわみなみ)高校
- 3 訪問者 庄内総合高校 教頭 難波理、高校改革主査 丹野陽(報告者)
- 4 応対者 教頭 菊池雅明
- 5 調査事項

(1) 吉川美南高校の特色

①再編整備

- ・前身は吉川高校。当時は生徒指導困難校。
- ・再編計画では、全日制を廃してI部・II部の定時制の学校をつくる計画であったが、吉川市から、全日制を無くすことに反対があった。その折衷案として、現在のスタイルとなった(全日制も残り、昼間定時制のI部が設置された。)
- ・現在は生徒指導上困難な生徒は減っており、おとなしい生徒が増えているので授業は落ち着いたものとなっている。吉川市民からの評価も良くなった。

②概要

- ・I部全日制(120名)、I部定時制(80名)、II部定時制(80名)からなる学校。
(I部は昼間、II部は夜間という意味)
- ・I部全日制は就職向け、I部定時制は進学向けのカリキュラムとなっている。

(2) 全日制と定時制生徒の交流・連携に係る課題と工夫

(授業、学校行事、部活動、生徒会活動等)

- ・I部は課程上の区別はあるが学校生活はすべて同じ
- ・I部は8:30~15:40まで、II部は15:50から授業が始まる
- ・I部の部活動は全定で一緒。ただし、大会出場に関しては高体連の規定により出場の制限がある競技もある。
- ・I部とII部の交流は9月の学校祭のみ。I部放課後に行われる選択授業は、I部、II部の生徒が選択できる。
- ・昇降口はI部とII部は別になっている。HR教室は、I部1年次生、3年次生、及びII部1年次生は単独教室だが、I部II部の2年次生は教室を共有している。共有で特に問題は生じていない。

(3) 全日制・定時制職員の勤務と教育課程(時間割)運営上の課題と工夫

- ・年次経営はI部として行う。(I部は全日と定時の区別せずに一つの年次団として編成)
- ・I部の教員はすべて同じ業務を行う。授業も課程の区別なく相互に受け持つ。籍(本籍)がある課程の授業をより多く担当する条件があるが、実際にはそうになっていない。部活動もI部の全ての教員(全定)で受け持つ。

しかし、同一の業務である一方で、定時制通信教育手当は定時制の教員にのみ支払われ

ているため、運営上の問題となっている。

- ・ I 部と II 部の職員室は別。互いの授業を受け持つことはない

(4) 地域連携の在り方

- ・ 吉川市の様々な課からボランティアやイベント参加の要請があり、それに対応している。

(5) その他

○課程間の授業の履修

- ・ 原則として I 部全定の生徒が授業を一緒に受けることはない。ただし、放課後における選択 J 群だけは一緒に授業を受けている。
- ・ 授業料徴収は条例に則って行っている。

○総合学科以外からの転編入生徒の「産業社会と人間」の扱い

（「産業社会と人間」を未履修の転編入生徒がいた場合、その生徒に対する履修指導など）

- ・ 「産業社会と人間」は、長期休業中等に補充を行っている。

さらに吉川美南高校の教育課程に照らし、その中で履修していない科目があれば、すべて補充している。

○特別支援に係る生徒について

- ・ 入学する生徒に、特別支援が必要な者が増えている。現在、障害者手帳（埼玉県ではみどりの手帳と呼ばれる）を取得し就職活動に向う生徒や児童相談所扱いになった生徒がいる。
- ・ スクールソーシャルワーカーは月曜と木曜、教育相談員は週 4 日勤務している。スクールカウンセラーは週 1 回勤務で II 部に籍を置いているが、I 部も面倒を見てもらっている。

6 まとめ

- 総合学科である吉川美南高校では、多様な選択科目を開設するため、全定教員による授業の持ち合いを積極的に行っている。このことを考えると、同じように庄内総合高校でも全定教員による持ち合いが必要である。
- 昼間定時制における定通手当の件は、難しい問題である。
- 定時制・通信制を設けるにあたり特別な支援を必要とする生徒が増えることが予想されるため、スクールソーシャルワーカー、教育相談員、スクールカウンセラー等の配置も検討していく必要があると思われる。
- I 部の全日制と定時制は授業以外の全ての活動を合同で行っているが、このやり方をそのまま庄内総合高校に導入することは難しいと思われる。
- 全日制と昼間定時制が一緒に学ぶ選択群は週 4 コマ設定している（J 群）。授業料徴収条例に則って行っている。